

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成19年3月22日(2007.3.22)

【公開番号】特開2005-283380(P2005-283380A)

【公開日】平成17年10月13日(2005.10.13)

【年通号数】公開・登録公報2005-040

【出願番号】特願2004-98637(P2004-98637)

【国際特許分類】

G 0 1 N 33/74 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 33/74

【手続補正書】

【提出日】平成19年2月6日(2007.2.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 3】

例えば、テストステロンは、性ホルモン結合グロブリン (sex hormone binding globulin; SHBG) 結合型が35～75%、アルブミン結合型が25～65%、遊離型が1～2%という割合で生体内に存在している(非特許文献12)。そして、SHBGが血中に増加すると、テストステロンが高親和性にSHBGに結合する結果、遊離型のテストステロンが減少し、生体内でのアンドロゲン作用が減弱される。一方、アルブミンに対するテストステロンの親和性はSHBGに対するその1/1000ときわめて低く、また、血中ににおけるテストステロンの蛋白結合型-遊離型は平衡状態にあるため、血中の遊離型テストステロンが減少すると、アルブミンに結合しているテストステロンが解離して遊離型となる。このようなことから、生物活性を有するとされる遊離型テストステロン及び親和性が低くて遊離しやすいために標的器官へテストステロンを提供する能力を有するとされるアルブミン結合型のテストステロンの2者をまとめて、バイオアベイラブルテストステロンと呼ばれている。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 2】

【特許文献1】特許公開2000-081434号公報

【特許文献2】特許公表2001-515788号公報

【特許文献3】特許公表2001-504686号公報

【特許文献4】再公表WO00/057191号公報

【非特許文献1】Clinica Chimica Acta; 132, 101-110(1983)

【非特許文献2】J.Clin.Endocrin.Metab.; 61(4), 705-710(1985)

【非特許文献3】J.Clin.Endocrin.Metab.; 71(4), 963-969(1990)

【非特許文献4】医学のあゆみ; 205(6), 407-410(2003)

【非特許文献5】J.Clin.Endocrin.Metab.; 63, 1418(1986)

【非特許文献6】J.Clin.Endocrin.Metab.; 84, 573-577(1999)

【非特許文献7】J. Clin. Endocrinol. Metab.; 84, 3666-3672(1999)

- 【非特許文献 8】J.Biol.Chem.; 277, 45219-45225(2002)
- 【非特許文献 9】J.Clin.Endocrin.Metab.; 75, 1066-1070(1992)
- 【非特許文献 10】J.Steroid Biochem.; 17, 375-380(2002)
- 【非特許文献 11】Steroids; 64, 328-334(1999)
- 【非特許文献 12】泌尿器外科; 16(8), 825-830(2003)